

「フジテレビのコンテンツビジネスへの新たな取り組み」



フジサンケイ広報フォーラム 1 月・月例会は、フジテレビ編成制作局局長職兼局長補佐の加藤浩輔氏を講師にお招きし、フジテレビのコンテンツビジネスへの新たな取り組みについて解説いただきました。

加藤氏はまず、ここ 20 年ほどでテレビを取り巻く環境が劇的に変化していると指摘。CS・BS、地上デジタル放送、さらには高速インターネット網の充実により映像コンテンツの視聴スタイルが多様化していると説明。

その変化の一例として、プロ野球中継を例に挙げた。かつて、CS で「プロ野球中継」を放送する際には、地上波での放映前と放映後の模様しか流せなかったと話し、地上波の”邪魔をしない”編成が求められていたことを紹介。現在では地上波放送が大幅に減る一方で、スカパー！のプロ野球セットでは全試合が完全中継され、しかも同時配信サービスも行っている。

フジテレビでは 2008 年から見逃し配信を開始し、15 年からは放送直後に配信し、2021 年からは TVer もスタートし、AVOD を本格化させた。また SVOD を提供する FOD では放送中の最新作から過去の名作ドラマ、漫画・雑誌などの電子書籍も配信するなどサービス内容を充実させ、市場ニーズに対応していると述べられました。

動画配信の視聴スタイルが拡大する中で、これまでの地上波視聴率だけでなく、配信でのコンテンツ再生数などの指標も重視されてきたと説明、放送と配信を合わせて捉えてゆくべきであると話されました。

※フジテレビは、広告付き動画配信-AVOD で 2022 年に再生数が約6億 8400 万再生、UB 数が約4500 万 UB、総視聴時間が約2億 9300 万時間を記録し、「年間 AVOD 三冠」を獲得した。

最後にテレビ各局のビジネスモデルの中心でもある広告の在り方についても言及。フジテレビがいち早く取り組んでいるデジタルプロダクトプレイスメント(コンテンツ内で商品等を露出する広告手法)の事例として、iCADs の技術について解説し、講演を締めくくりました。

講師プロフィール

加藤浩輔 Kosuke Kato

フジテレビジョン編成制作局局長職兼局長補佐

1987 年フジテレビジョン入社。編成局映画企画室、経営企画局などを経て、2009 年デジタルコンテンツ局デジタル企画室長、12 年コンテンツ事業局統括担当局長、22 年6月から現職。